

降雨量と薬剤特性に考慮したサトイモ疫病の効果的な防除体系

ダイナモ顆粒水和剤の散布約7日後にカンパネラ水和剤を散布する“セット散布”はサトイモ疫病に高い防除効果がある

背景・目的

- ・サトイモ疫病は、葉の病斑に形成された胞子が雨風によって飛散し、急速に蔓延する。これまで防除対策として、降雨に関係なく、薬剤を定期的に散布(以下、スケジュール散布)を実施
- ・スケジュール散布は、サトイモ栽培期間が長いことから、散布回数が多くなることや降雨の多い年に効果が劣ること等が問題
- ・感染要因となる降雨量と治療効果の高い薬剤を考慮したサトイモ疫病に対する効果的な防除体系が必要

成果の内容

- ・サトイモ疫病の初発確認後に、ダイナモ顆粒水和剤を散布し、その約7日後にカンパネラ水和剤を散布する“セット散布”で発生初期のまん延を抑制
- ・初発確認時のセット散布後、累積降雨量100mmを目安にセット散布を繰り返すことで高い防除効果を維持

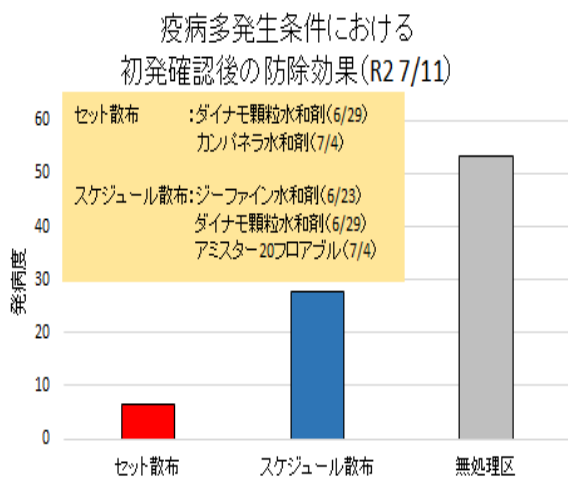


図1 疫病初発確認時のセット散布による防除効果

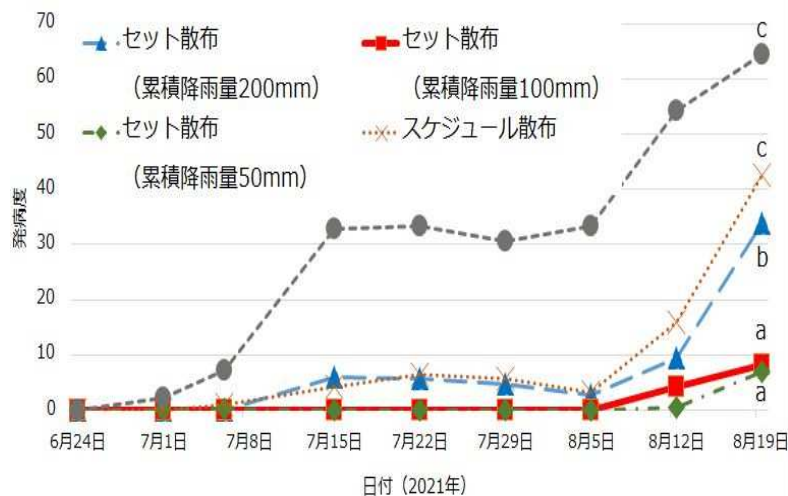


図2 累積降雨量ごとのセット散布試験における発病度推移
注)8/19の異なる英小文字間は有意差あり
(Steel-Dwass検定, $p < 0.05$)

期待される成果

・サトイモの生産安定

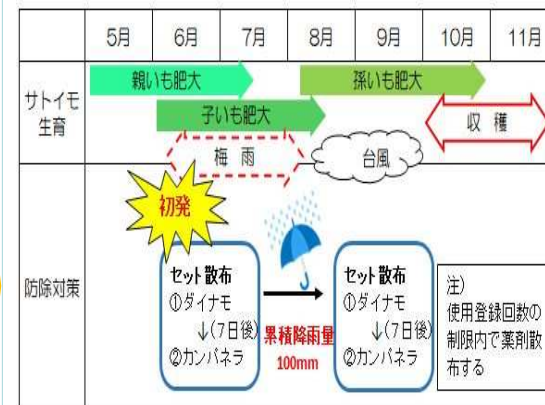


図3 本成果を活用したサトイモ疫病の防除例

○普及対象・範囲

県内サトイモ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室